

# 許せない！ 権力の木先案内人「本部」反動分子

## 日刊 動労千葉

81.7.10 No.788

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五(六)公衆(電話)七二〇七

## 怒り渦巻く 津田沼支部

七月八日早朝、千葉県警・船橋署は、機動隊五〇名、私服刑事四〇名、機動隊バス二台、ジープ、指揮官車という異例のものものしい大部隊をもって、動労「本部」石津、革マル分子・竹内、革マル弁護士・渡辺千古他一名、デッチ上げ被告人、転び屋・革マル分子嶋田誠・斉藤吉司、佐藤次男の案内のもとに津田沼電車区に押し入り、四時間にわたって「六・一二デッチ上げ事件」の「現場検証」なるものを強行した。いまや、なりふりかまわず動労千葉破壊のため、デッチ上げタレコミ告訴にはしり、喜々として権力を職場に導入する尖兵と化した「本部」反動分子をいかなる意味においても許すことはできない。かかる反階級的通敵行為を平然と行う「本部」反動分子をひとときたりとも早く動労II国鉄労働運動から追放・一掃するため決起せねばならない。

### 権力の奴隷に転落した「本部」

日頃、組織内外に「権力の謀略を許すな」「反ファッショ統一戦線の構築を」等とわめいている「本部」反動分子は、これとは全くあい矛盾して、権力の水先案内人となって権力に同道し、「現場検証」に際して「千葉動労にこんなひどい暴力をうけました」「早く千葉動労を弾圧して下さい」とばかりに、デッチ上げの「自作自演劇」を演じたのである。

この嶋田誠・斉藤らの身ぶり・手ぶりの三文役者的演技にもとづき権力は、甲・乙・丙・丁(「本部」)、1〜11(動労千葉)のゼッケンを身につけて「デッチ上げ事件」を「再現」しカメラに写し巻尺で距離を測定し、動労千葉弾圧の口実づくりを行ったのである。

この間権力は、動労千葉・国労組合員すべてを排除し、ロープを張って立ち入り禁止にして、「本部」石津、革マル分子・竹内、革マル弁護士・渡辺千古らは「現場検証」に立ち合わせるというまさに権力——「本部」のおぞましい関係をさらけ出して見せてくれたのである。

この様に、「本部」反動分子は、労働者の利益を代表すべき労働組合の原則をなげすて、デッチ上げ告訴をもって労働者を権力に「労働組合」の名をもって売り渡すという天にツバする行為をするばかりか、権力を職場に導入し、権力の土足で職場をじゅうりんさせる水先案内人II奴隷以下の役割をかってでるにいたったのだ。

かかる許しがたい、おぞましい行為に津田沼支部の仲間はずより、国労組合員をして「奴らは労働者じゃない」と怒りをあらわにしている。

### 津田沼支部怒りの決起

### 身ぶり手ぶりで、自作自演のデッチあげを演じてみせる嶋田、斉藤(吉)ら「本部」反動分子！



このオゾマシ 権力「本部」連合を見よ！  
(1981年7月8日早朝、津田沼電車区)

津田沼支部組合員は、嶋田誠、斉藤(吉)、佐藤(次)らの手引によって、権力が職場に押し入り、以後四時間以上にわたって構内にロープを張り、出勤・退区的全職員を一人ひとり検問し、あげくは、「目を閉じて歩け」「何も見るな」「公務執行妨害だ」等という権力「本部」連合ともいふべき弾圧策動に怒りを燃やしている。

知らせを受けて急拠支部にかけつけた組合員は改めてデッチ上げ告訴粉碎、「本部」反動分子一掃の決意を固めた。  
津田沼支部は九日、拡大執行委員会を開催し、十日〜十二日までの連続抗議集会をもって権力「本部」一体のこの弾圧・組織破壊攻撃粉碎に決起することを決定している。

全組合員のみなさん。  
津田沼支部と連帯し、全職場から怒りの決起をかちとれ。権力に身も心も売り渡した者がどんな末路をたどるのかを、闘いをもって知らせしめよう。いまこそ動労千葉三百は決起せよ。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！